

もがみ大豆だより

第1号<圃場準備・播種編>
令和5年5月23日
最上総合支庁 農業技術普及課
TEL: 29-1329 (作物担当)

大豆の収量確保に向けてのポイント!

①圃場の排水対策 ②土づくり ③適期作業

1 排水対策 ～明渠・補助暗渠の施工で排水効率UP!～

- 圃場の排水が悪いと発芽不良や、根域の不足・根粒菌の着生数減少等による生育量の不足につながります。
- これらの対策として、明渠による圃場表面の停滞水の防止と本暗渠や補助暗渠による透水性の確保が有効です。次の項目に留意して排水対策を行いましょ。

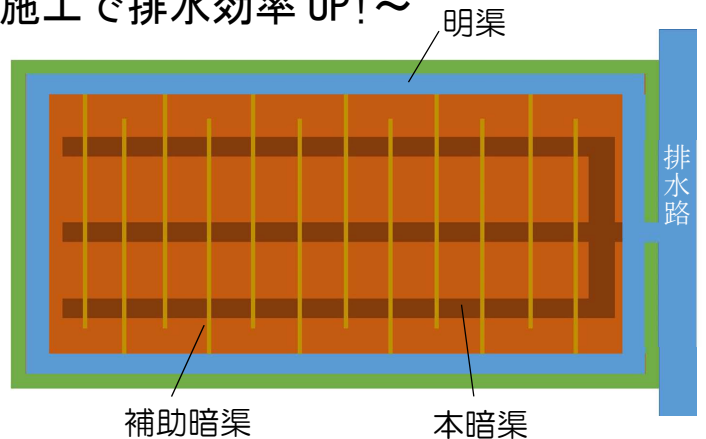


図1 転換田における排水対策の例

明渠

- 確実に排水路につなぐ
- 深さの目安は30~40cm
(水田に隣接する圃場は特に深く施工)

補助暗渠

- (弾丸暗渠、サブソイラ等による心土破碎)
- 確実に明渠につなぐ
- 本暗渠と交差するように施工
- 間隔は5~10m おき

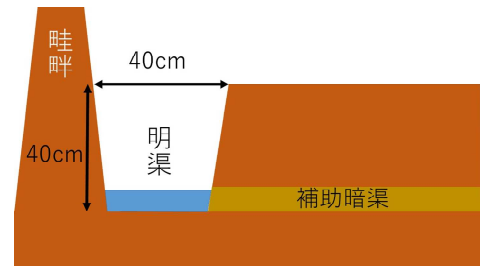


図2 明渠の施工例

2 土づくり ～pH改善と土づくり資材の施用で地力UP!～

- 根粒菌活性の最適pHは6.0~6.5です。土壌pHを確認し、低い場合は苦土石灰等で酸度矯正を行いましょ。
- 大豆は地力依存度の高い作物です。収量向上のため、堆肥を積極的に施用しましょ (表1)。
- 基肥は表2の施用量が目安です。堆肥等を施用した場合は、堆肥等に含まれる肥料成分を考慮しましょ。窒素を施用しすぎると、根粒菌の着生と窒素固定量が減少するため、注意しましょ。
- 耕起作業は碎土率(直径2cm以下の土塊の割合)が70%以上になるよう丁寧に行いましょ。

表1 堆肥および土壌改良資材の目安

資材名	10a 当たり 施用量	効果
発酵鶏糞	100kg	地力の維持、増強 ※左の内いずれかを施用
豚糞堆肥	0.5~1t	
牛糞堆肥	1~2t	
苦土石灰	80~120 kg	pH適正化、 根粒着生、生育改善

表2 基肥施用量の目安 (成分 kg/10a)

窒素	リン酸	カリ
2~3	6~8	10~12

3 適期作業

①播種

品種の選定

○圃場条件や収穫時期を考慮して品種の選定を行いましょう（表3）。



里のほほえみ シュウリュウ

表3 最上地域で主に栽培される大豆の品種と特徴

品種	早晩性(成熟期)	百粒重	ダイズシスト センチュウ 抵抗性	特徴
リュウホウ	早生(10/7頃)	29g程度	強	しわ粒がやや多い
シュウリュウ	早生(10/8頃)	30g程度	弱	品質・収量はリュウホウに優る
里のほほえみ	中生の晩(10/14頃)	37g程度	弱	大粒、裂皮・しわ粒が発生しにくい 成熟期後に莢がはじけにくい

播種適期

○大豆の播種適期は5月20日～6月10日

適期内で播種時期が早いほど、開花期までの生育量（分枝数、茎の太さ等）を確保しやすく、収量向上が期待できます。

○播種時期が遅れる場合は播種量を増やして対応（表4）

播種が遅れたことによる生育量の遅れを栽植本数でカバーします。

表4 <播種時期別 10aあたりの栽植本数及び播種量の目安>

	播種 時期 (月/日)	栽植本数 (本/10a)	株間の目安 (畦幅 75cm、 2粒点播の場合)	必要な種子量 (/10a)		
				リュウホウ	シュウリュウ	里のほほえみ
適期	5月下旬～ 6月上旬	12,000	22cm	3.8kg	3.9 kg	4.7kg
↓	6月中旬	15,000	18cm	4.8kg	4.9 kg	5.9kg
晩播	6月下旬	18,000	15cm	5.7kg	5.9 kg	7.1kg

②病虫害防除

○播種後の病虫害を防ぐため、種子消毒を行いましょう。

○ネキリムシ類の成虫は雑草の葉や地際部に産卵します。

播種前からの圃場周辺の除草を徹底し、圃場近辺に産卵させないよう対策しましょう。

③雑草防除

○雑草発生量の多い圃場では、耕起前の農耕地用非選択性除草剤散布が効果的です。

○土壌処理除草剤は、遅くとも播種後2日以内に処理しましょう。

播種後の土壌処理除草剤は、圃場が乾燥し過ぎた状態で処理すると除草効果が劣ります。また、散布後の大雨により薬害が発生する場合がありますので、天気予報を確認して処理を行いましょ。

山形県農作業事故防止啓発運動 春季運動強化期間（4月10日～6月10日）
農作業は、焦らず、準備万端に、気を引き締めて。